

電子ジャーナルのビジネスモデルと 大学図書館

富山大学附属図書館

木村 優

kimura@lib.toyama-u.ac.jp

電子ジャーナルのビジネス
モデル策定に関するワーク
ショップ

2005/01/27

国立大学法人の収支

- ◆ 収入
運営費交付金と自己収入(授業料, 病院収入)等
- ◆ 支出
一般管理費, 学部・大学院教育研究費, 施設等
経費
- ◆ 平成17年度から毎年度効率化係数 1%
適用

大学図書館の経費

- ◆ 図書館(運営)経費と図書館設備(資料)費
- ◆ 図書館(運営)経費
 - 庁舎管理
 - 時間外開館・土日開館
 - 電子計算機借料
 - 電子ジャーナル導入経費

大学図書館の経費

- ◆ 図書館設備(資料)費
 - 学生用図書購入経費
 - 参考図書購入経費
 - 外国雑誌購入費(外国雑誌センター)
- ◆ 学生用が大半。

学生用図書費

- ◆ 従来の文科省配分がもともと少額
- ◆ 学部経費 + 学長裁量経費等に依存
- ◆ 研究用資料費(図書, 雑誌)は, ほとんどない

研究用資料費

- ◆ 教員・講座の教育研究費から支出
- ◆ 資料選択は教員が行い、図書館は支払・目録等の事務処理のみ
- ◆ 固定資産としては、図書館の管理

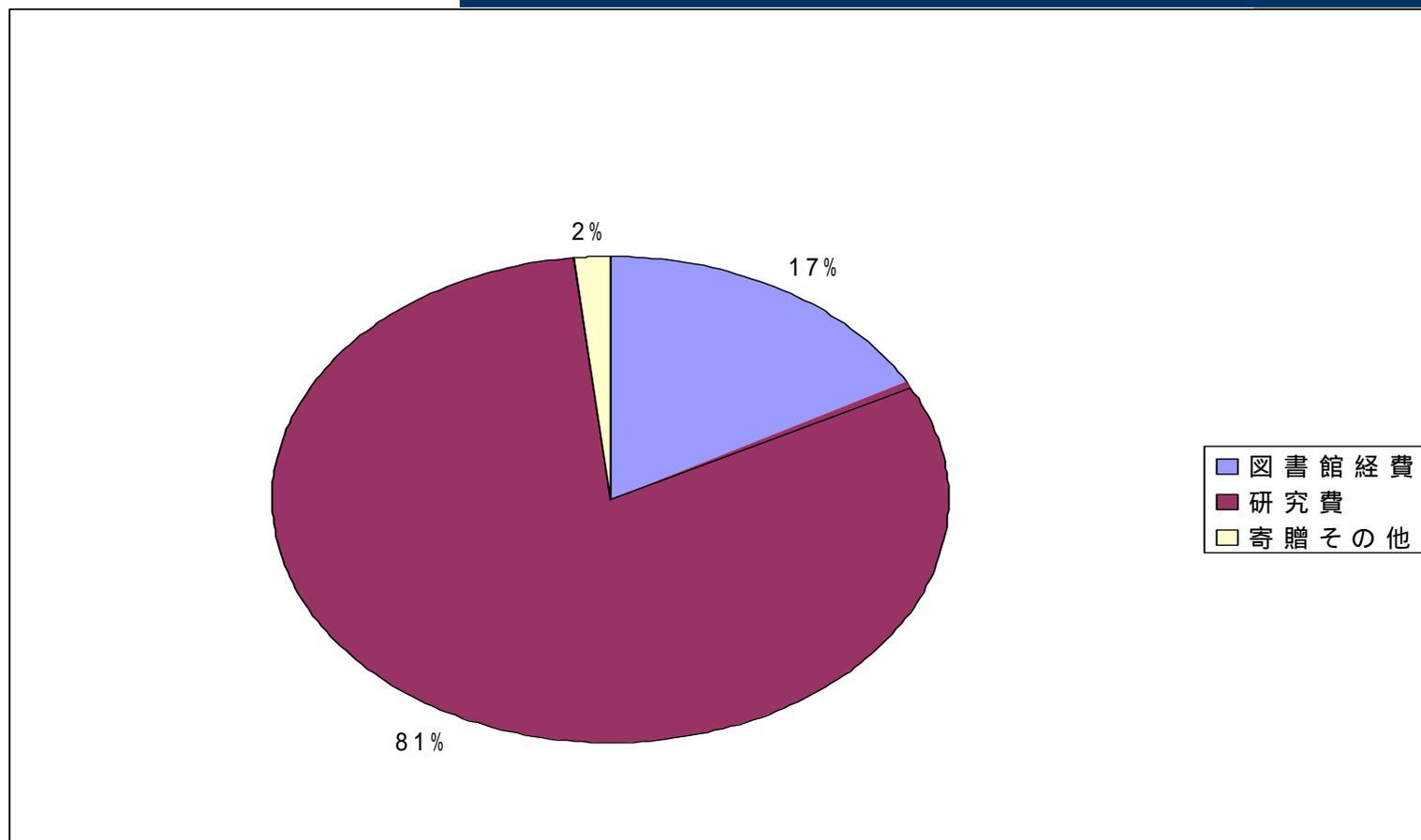
雑誌購読の流れ

- 教員自身，研究室での直接購読
非・図書館資料としての購入
図書館では把握できない
- 図書館で予約集約して，発注
研究費での購読(大)
図書館資料費での購読(小)
- ◆ 雑誌の予約発注
外国雑誌 10月(1月から)

学協会誌の購読形態

- ◆ 年間の購読予約
- ◆ 刊行予定のすべての号到着後の後払
- ◆ 購読価格の設定
 - (1) 1冊の頒布価格
 - (2) 個人購読 / 機関(団体)購読価格
 - (3) 会員価格(個人, 団体)
 - (4) 図書館価格

NIIパートナー誌の国立大学図書館購読状況



電子ジャーナルのビジネスモデル策定
に関するワークショップ

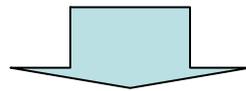
2005/01/27

図書館購入の学協会誌

- ◆ 全体としての購読数が少ない
 - 図書館自身の経費による購読数が少ない
 - 研究費による購読が大部分
- ◆ 価格設定がさまざま
 - 会費扱い 前払/後払 請求事務が煩雑
- ◆ 学協会から大学図書館へのアプローチ
 - 冊子体送付と請求・支払の関係
 - 教員 = 研究者 = 会員を間にはさんだ, 学術コミュニケーションの協同可能な関係者(Stakeholder)

電子ジャーナル

- ◆ 文科省からの「呼び水」的な予算配分
- ◆ 図書館自身の経費としての取扱



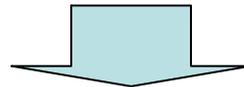
- ◆ 不足分は、学部経費 + 学長裁量経費 + 共通中央経費で
- ◆ 各大学図書館で、共通中央経費化の努力

電子ジャーナル

- ◆ 継続・安定した経費確保が課題

しかし...

- ◆ 基準年の購読規模の維持
- ◆ 毎年の雑誌購読金額の上昇(5%未満でも)



- ◆ 共通中央経費の増額がいつまで可能か

海外電子ジャーナルの契約

- ◆ 国大図協電子ジャーナルタスクフォースとの協議によるコンソーシアム契約
- ◆ 基本契約条件を，出版社，または出版社から交渉委任された代理店等と協議
- ◆ 合意に基づき，契約は各国立大学図書館と出版社等
- ◆ 協議にあたってのチェックポイント

チェックポイント(1)

- ◆ **コンソーシアム形成の意義**
参加館数での値引き, アクセス範囲(巻号, 年次), 大学間
デジタルデバイドの解消
- ◆ **価格付け**
電子中心の価格, 冊子体購読価格の維持を前提としない,
値上率の上限設定
- ◆ **冊子体購読額**
基準年, タイトル数/全購読部数, 通貨, FTE範囲, サイトの
取扱い

チェックポイント(2)

- ◆ サービスの安定供給
サービス中断時の代替保証, アーカイブ保証, 出版社売却時の保証
- ◆ サービス条件
24時間提供, 来館者利用, 文献複写 (ILL) での利用
利用説明書, トレーニング
- ◆ 支払条件
契約単位, 支払方法, 契約期間, 契約更新・解除, 準拠法,
係争地の指定

チェックポイント(3)

- ◆ 利用統計の提供

COUNTER

- ◆ 申込

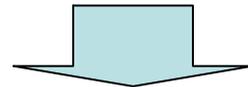
トライアル実施, 申込期限(第一次, 第二次)

大学図書館での購読に向けて

- ◆ **教員からの購読希望が大前提**
 - 安価というだけの購読はできない
 - 教員の利用がなければ、継続できない
- ◆ **学協会からの働きかけ**
 - 学会員への学協会自身の電子ジャーナルの広報**
 - 図書館への電子ジャーナル購読要請
- ◆ **大学図書館からの働きかけ**
 - 関連する分野の学部・学科・講座への広報
 - 経費負担の調整

学術コミュニケーションの変革

- ◆ 学術出版における商業出版社の役割
- ◆ 商業出版社の比重の増加と寡占
 - 研究者自身は著者(生産者) = 読者(購読者)
 - 論文の二重投稿禁止 代替商品が存在しない
- ◆ 研究者・図書館による, 学術情報流通での競争性の確保



オープンアクセス

電子ジャーナルのビジネスモデル策定
に関するワークショップ

オープンアクセス

- ◆ オープンアクセスとは
 - 査読済み学術論文への障壁なきアクセス
 - 障壁とは？
 - 料金(無料でアクセスできる)
 - 許諾(著作権保有者の許諾なしに,複製等ができる)
- ◆ 2つの道
 - オープン・アクセス誌の創出(ゴールド・ロード)
 - セルフ・アーカイビング(グリーン・ロード)

オープンアクセス誌

- ◆ 掲載論文への障壁なきアクセスを許す雑誌
- ◆ さまざまな形態
 - 完全オープンアクセス
 - 部分的なオープンアクセス
 - Embargo (刊行後一定の猶予期間)

セルフ・アーカイビング

- ◆ 著者が、プレプリント(査読前論文) and/or ポストプリント(査読後論文)を個人サーバ, 分野別サーバ, あるいは大学(図書館)が運営するサーバに蓄積し, それを無償で公開する行為
- ◆ 大学・研究機関別
 - 機関リポジトリ(Institutional Repository)

セルフ・アーカイビング

- ◆ エルゼビア社を含めて多くの出版社がセルフ・アーカイビングを許可
- ◆ 学協会のセルフ・アーカイブへの態度
 - 所属大学・機関リポジトリへの蓄積・公開
 - 国立情報学研究所電子ジャーナル・リポジトリへの蓄積・公開

大学図書館とオープンアクセス運動

- ◆ 報知活動
 - オープンアクセス運動の動向を学内研究者に知らせる
- ◆ OA誌の支援
 - オープンアクセス誌へのアクセス支援(ナビゲーション)
- ◆ セルフ・アーカイビングの支援
 - 学内研究者のセルフ・アーカイブの受け皿としての「機関リポジトリ」の構築と運営